

令和4年4月6日

令和4年度前期始業式校長講話

「ありがとう」にありがとう！

長野県蘇南高等学校長 小川幸司

◇ はじめに

今日から令和4年度の蘇南高校が始まります。

3月末の教職員の転勤がとても多かったので、教科担任や部活動の顧問が大きく変わります。転勤した先生方の思いを引き継いで、新しい教職員集団が今年度も皆さんを温かく支えていきますから、どうか新しい出会いを楽しんでください。

今年度は新学期が桜の花のなかで始められそうです。皆さんが美しい環境のなかで学べるよう、様々な人々が支援をしてくれています。前庭の桜のまわりの雑木を、地元の田中木材店さんや校用技師さんが伐採してくれました。桜の向こうに南木曾岳や南木曾の町並みが見えて、とてもきれいな風景になったのです。さらに今春の卒業生がミツバツツジの苗20本を買ってくれました。南木曾町さんが「もっと美しくなるように私たちもツツジの苗を寄贈します」と言ってくれています。来年の春になると、「尚学の道」の両側が一面のツツジの海のようになるでしょう。

◇ 「ありがとう」にありがとう！

たくさんの人の優しさに支えられて、私たちの日々は成り立っています。

そのことに気づいたとき、「ありがとうございます」という一言をどうしても言いたくなります。私が蘇南高校の生徒の皆さんを素晴らしいと思うのは、日々のあいさつを丁寧にしてきて、とりわけ「ありがとう」という言葉を大切にしてくれているからです。

昨年11月の修学旅行の最終日のことです。もうあたりが真っ暗になった頃、2台目のバスが最終到着地の天白公園に帰って来ました。疲れを微塵も感じさせない笑顔の2年生たちがおりてきます。トランクルームから荷物を受け取ると、なぜか生徒たちが整列しました。「先生たちはここに来てください」と私たち教員を前に立たせ、代表の生徒が旅行を終えた今の思いを語りました。コロナの時代であるにもかかわらず、予定していた旅行を実現してくれたことへの感謝のことばから始まり、この四日間の中でどれほどの喜びがあり、どれほどの互いの絆の深まりがあったかを話してくれました。

「この旅行で得たものを、必ず私たちは、残りの高校生活の進路実現、生徒会、部活動の充実につなげていきます！ 本当にありがとうございました！」生徒の皆さんが、そうやって頭を下げるのでした。そして親の自動車に戻る途中、さらにバドミントン部の生徒たちが、私たち一人一人に感謝の思いを告げて帰って行きました。

修学旅行のこのようなエンディングの風景に、私はとても驚き、心を動かされました。実は、その前の年の2年生もエンディングでこのようなサプライズ・セレモニーをしてきていました。これが皆さんの間で代々受け継がれているものなのか、それとも毎年、自然に皆さんが行っているのか、機会があれば是非、教えてください。

もうひとつ、3月の卒業式のあとのことです。1枚のプリントが校長室に届きました。QRコードにカメラをあてると、YouTubeの映像が自動的に再生されるしくみになっていました。卒業生から

のビデオレターでした。「本当はお一人お一人の先生にお礼を言いたいのですが、時間が限られているので、私たちからの手紙を送ります」とテロップが流れ、3年間の笑顔の写真と生徒からの手紙が画面に出てきます。「いのちをくれた親と、賢く生きる術を教えてくれた先生に感謝しています。」
「先生にたくさんの笑顔をもらいました。」「たくさんの補習をしてくださって、ありがとうございました。」…

メッセージが次々とあらわれ、最後にクラス全員の生徒の笑顔と「蘇南、最高！」のテロップが映し出されて、ビデオレターはしめくられていました。卒業式が終わった後も、生徒たちと共有した感動の余韻を心に刻むことができます。

生徒の皆さんに励まされ、たくさんの勇気をもらい、私は、今ここに生きていられるように思います。皆さんの「ありがとう」という言葉に、私の方こそ「ありがとう」と感謝しています。

蘇南高校の全職員が同じ思いです。

令和4年度も「ありがとう」という言葉の花が咲く、蘇南高校にしていきたいですね。

◇ 1ミリの成長を大切に

さて、年度初めなので、校長から二つの大切な連絡をします。

ひとつめ。蘇南高校は、授業や生徒会・部活動をとおして、皆さんに身につけてほしい力を大切にしています。具体的には、3年間をとおして皆さんに身につけてほしい力を「蘇南高校ラーニング・コンパス」という形でまとめています。

- | |
|---|
| <p>(1) 知識・技能： 人間と世界についての豊かな知識と技能</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力： 唯一解がなくても最適解を判断する力、他者の声のすばらしさに気づく力、自ら問いをたてて探究する力、など。</p> <p>(3) 学びに向かう主体性： 学びを自己調整する力、試行錯誤を続ける力、学んだことが未来につながることを想像する力、など。</p> |
|---|

テストで何点とったから、評定がいくつというような数値だけでなく、授業のなかのディスカッションであるとか、プレゼンであるとか、作文など、さまざまな学びをとおして、「あなたはこのような力が伸びましたね」と先生たちが声をかけられるようにしていきたいと思っています。

それを自分自身でも自覚して、たとえば、「コロナ予防のオンライン授業を通じて、自分は試行錯誤する力が1ミリ伸びたような気がする」というように、具体的な場面で自分をほめてほしいと思います。たとえわずかな1ミリの変化であっても、それが積み重なっていくことによって、人々の未来の幸せを支えられる人間（学校目標の「開拓者」！）になっていけるのです。

今年度から通知表について、今までの評定だけでなく、「ラーニング・コンパス」の3観点についてABCの評価（観点別評価と言います）が加わります。「自分はここが成長した」と自信をつけてほしいための通知表改革だと思ってください。

◇ 新しいコロナ対策の方針

ふたつめ。新型コロナウイルス感染症のオミクロン株の流行が続いています。若い人はあまり重症化しない反面、感染力がとても強く、高齢者や基礎疾患をもつ人にはリスクの高い病気です。コロナに対する感染予防の方針（毎朝の健康チェック、不織布マスクの着用、昼食時の黙食など）に変更はありません。そのうえで長野県のコロナ対策が次の二つの点で変更されました。①高校で陽性者が出た時に、保健所が学校内の濃厚接触者の特定をしないことになりました。②部活動につい

て、県内独自警戒レベルが5以上になったときには練習試合を行わないが、大会前の練習試合を認めるとのことです。

①についてですが、何もしなければ当然クラスターがおこるおそれが高くなってしまいうでしょう。そこで、万一陽性者が出た時には、教室の座席が近い人や同じ部の人などに、学校が健康観察のお願いをするようにしますから、協力をしてください。

②についてですが、他県への遠征をする機会の多い蘇南高校では、次の方針をたてることとします。④直近一週間の新規感染者が10万人あたり90人をこえる地域（レベル5に相当）との練習試合は行わない。⑤インターハイ（予選）・新人戦の2カ月前については④に該当する地域であっても練習試合を審議のうえで認めることもある。⑥しかし2カ月前であっても緊急事態宣言・まん延防止地域との練習試合はしない。⑦練習試合は原則として昼食をとらない。やむをえないときは黙食を徹底する。…このことは練習試合の基準を従来よりも大幅に緩めることになります。

しかしコロナの危険度が薄れたわけではありません。おさまらないコロナの現実を前にして、最大限の警戒をしながら日常生活を守っていく、「ウィズ・コロナの生活」をつくっていくためのブリコラージュだと思ってください。

◇ おわりに

今年度も校長室は、皆さんが話に来ることに「ウェルカム」です。気軽に話をしに来てください。

また、ホームページの「校長ブログ」も続けていきます。皆さんの活躍を記録する日記のようなものです。よかったらアクセスしてみてください。

皆さんの新しい一年間を、精一杯応援していきます！